

### 早く自分で読むようにさせたい

「現代っ子の心はわからない」と言って嘆く親の多いこのごろです。しかし、現代っ子の心は、今の世の親の心の反映です。

今の世の親たちの物の考え方、日常の行動が、すべて現代っ子の心や行ないを育てたのです。今の子どもたちの心の中にどんなに悪いものがあるとしても、それは親の負わねばならない責任です。

戦後、わたしたちは、わたしたちの心を育ててくれた古い物語を捨ててしまいました。それで、今の子どもは、愛や正義を貫き通す勇気を知らないのだと思います。

花咲爺さん、桃太郎、舌切雀、カチカチ山、猿蟹合戦、これらの昔話は、幼児たちの心を楽しい想像の世界に引き込んで、日本人の心を育てたのです。わたしは、小学校の一年生に、毎日一つずつ話をしてやったことがあります。あとで、どの話がおもしろかったかを調べました。わたしはそれまで、日本の昔話はどろくさいと思われ、西洋の童話の方がずっと人気があると思っていました。ところが、実際にはその反対で、いちばん人気があったのは、意外にもカチカチ山でし

た。

たしかに、「ここはね、カチカチ山と言って、カチカチ音がするんだよ」と話しますと、子どもたちは、ほかの話のときとはくらべものにはならないほどおもしろそうに、ニコニコしながら聞き入りました。カチカチという音がくり返されることも、愉快だったのでしょう。それにやさしい兎が、いたずら狸を、くり返しやっつけるのが子どもの正義感を刺激し、子どもたちは痛快でたまらなかったのでしょう。

日本の昔話は、やはり、日本人の心を育ててきた貴重な文化遺産なのです。子どもたちの心に、愛と勇気をしみこませる昔話を、ただ聞かせるだけでなく、早くから自分の力で読ませ、楽しませることによって、子どもたちを育ててやりたいと思います。